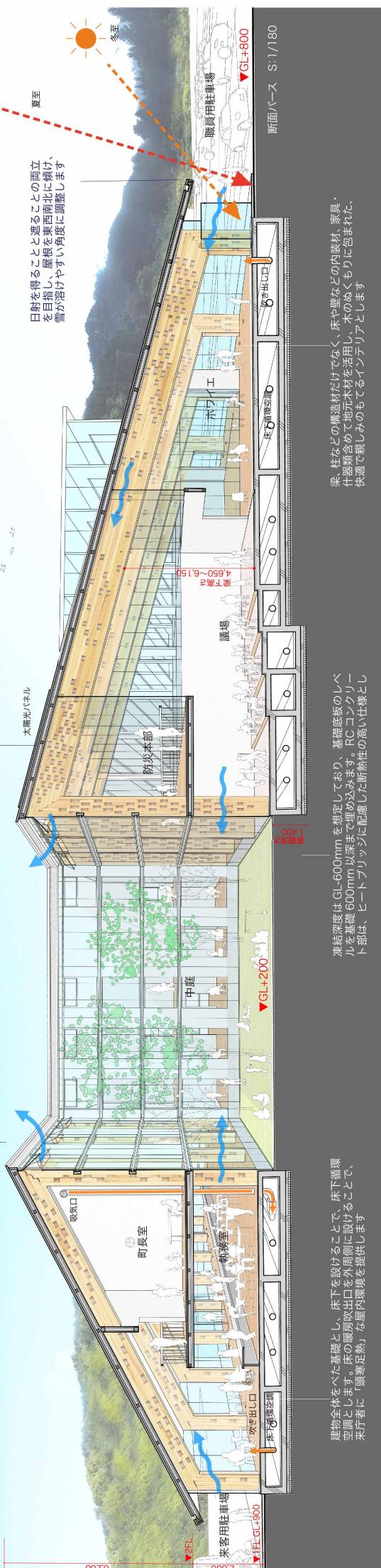


### 03 環境に配慮した長持ちする役場

「夏涼しく、冬暖かい町役場」のために、自然エネルギーを活かした形態で、自然と共にある厅舎の姿を具現化します。自然換気による煙突効果が、太陽光等の再生可能エネルギーを利用して、負担の少ない空調計画を提案します。

木の高さを抑えることで、木の開口部を向けると、木の煙突効果で、冬は木の利用ができます。



## 4. ふたつの円環による使いやすい役場

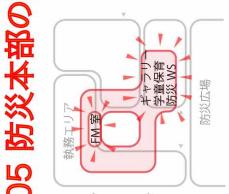
このように、ワシントンD.C.では、民間組織が主導する形で、多様な意見が交渉され、最終的に合意が得られることが多くなっています。一方で、日本では、官僚中心の議論がままならず、民間組織による議論が進むことは少ないと言えます。これは、日本の政治文化や組織文化が、官僚中心主義や権力集中を特徴としているためです。

市民への情報発信を担うFM室は、中庭に向かって利用可能な窓（情報発信部）と、FMラジオ室（情報受信部）で構成されています。また、ヘッドオーナーとして機能する町長室（村の意思決定）、防災本部（消防署電話室）、FMラジオ室（情報受信部）で構成されています。

物全体を基盤とし、床下を設けることで、床下循環装置により「頭寒足熱」な屋内環境を提供します。

梁、柱などの構造材だけではなく、床や壁などの内装材、家具・什器類含めて地元木材を活用し、木のぬくもりに包まれた、快適で親しみのもてるインテリアとします

## 05 防災本部の日常利用



06 町民ホールとなる議場



## 07 保健センターと連動する中庭・防災広場



普段は町民がやラリーとして設定して、防災教育や学習を通じて利用できる場となる。

アーチのコニュニケーションを形成し、外部になります。

